

全国高等学校PTA連合会 千葉大会へ参加して

会長：根本みゆき

テーマ： 「再発見！愛」～今こそ信じよう愛の絆～

平成28年8月25日（木）26日（金）全国から、集まった10000人を超えるPTAの方々と幕張メッセのイベントホールをメイン会場に開催されました。

25日 千葉敬愛短期大学学長 明石 要一氏による「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」～今こそ信じよう高校生を～。

現在、引きこもりやニートと呼ばれる子供たちが年々増えており、その理由について当たり前だった日本文化の変化について親子の会話の減少がまず一つに挙げられました。そんな中で晩酌文化の復活？というユニークな考え方を話され、その中には一家団欒の意味もあり、酔っぱらった父親が何度の何度も同じ話をするという中で、子供は必要な事を学びました、聞き流す事も自然に覚えるということ、こういう環境で育った子供の多くは、学校でも社会に出てからでも（食べっぷり・遊びっぷり・付き合いっぷり）も覚え、社会に出てからも多くのことを吸収する能力が自然と身につくことが出来ているとのことでした。様々な話のまとめに、二つの風と一つの色ということ、学校の風→コツを学び 家庭の風→家訓を示す、地域の色、長野県民の多くは、自分たちの郷土を自慢する傾向があるということでしたが、自分達の生活している郷土を見直すことにより、新しい発見や自分たちの生活する地域の色を子供たちが将来見つけていけるそんな社会を目指していけるように私達PTAが支えていくことの大切さを学びました。

25日 研究発表「基調講演」 株)リクルートマーケティングパートナーズ所長 小林 浩 氏による講演テーマ「進路選択と親子のコミュニケーション」

進路選択を進める中で親子の会話について、保護者は「話しているつもり」とあり子供は、「面倒くさい」というデータを使った結果が出ているとのことでした。しかし子供達の本音とすると進路や友人関係についての悩みなども話したいけれども、保護者が忙しく受け入れる体制に無い事が問題とのことでした。

子供が保護者の仕事について知らない事も多くあり「なぜ、その仕事をしているのか・なぜそれを選んだのか」など、子供にとっては一番近くにいるはずの保護者が伝える事もないままに子供に高望みをしていることが多く一番の不安の材料なのではないかと、感じました。

子供たちが将来の仕事に向かい、進学をすることに対してどのような内容を学ぶことが役に立つのか。何をするのももっと親子の会話を通し決して過干渉にならずに、一定の距離を持ち保護者も学校も一緒になり支えていくことが大きな役割であることを学びました。

26日 記念講演 女優 市原 悦子 氏による 「私の選んだ女優の道」

幼少期に戦争を経験し、疎開した話や疎開した先での教師との出会い。また、学校生活の中での教師からかけられた言葉とその思いを引きずりながら成長し、女優になってからそのわだかまりが解けた瞬間までの話をされました。

その後、グリム童話の「ねずの木の下に」・戦争童話「凧になったお母さん」の朗読がありました。

「ねずの木の下に」は、継母に息子が殺されてしまい、父親が息子を食するという残酷な内容から、始まるものでした。「凧になったお母さん」は、自分の身を削りながらも子供を戦火から守ろうとするという二つの対象的な内容を、市原さんの独創的なトーンの中で朗読されましたが、率直に、なぜ今日この場所での内容なのか疑問でした。しかし、私達の生活の中で、毎日のように何らかの家族間での事件が多発しているのも事実で、私達に求められているのは何か、を考えなければならないと強く感じました。

今回の全国大会のテーマ「再発見！愛」の中で、二日間にわたり、子供達とそれを支えるPTAの在り方の大切さと、～今こそ信じよう愛の絆～の意味を、私達もきちんと伝えていきたいと思えます。

